■自己紹介
《ご卒業の年度や、現在のお仕事・ご活動について簡単にご紹介ください。》

中学までは公立校に通い、高校から白百合に入学して、2015 年 3 月に卒業しました。
卒業後は東北大学・国立障害者リハビリテーションセンター学院を経て、言語聴覚士となりました。
言語聴覚士は、話す・聞く・食べる・飲み込むが難しくなった方にリハビリを行う仕事です。
現在は東京の病院で、子どもからご高齢の方まで、さまざまな年代の方にリハビリをしています。
2026 年度はタイ・ミャンマー国境地域のクリニックで、言語聴覚士として働く予定です。現地のスタッフの方に、日本の言語聴覚士のリハビリのノウハウを伝えることになっています。

仕事外では、LGBTQ など多様な性を生きる人のための活動として、当事者向けの居場所づくりや、地域での啓発イベントの手伝いなどを行ってきました。
2026 年度からはご縁があり、白百合で包括的性教育の授業を担当させていただいています。

■白百合での思い出・学校生活
《在学中に特に印象に残っている授業や行事はございますか。》
《部活動や学校生活の中で心に残っている経験はございますか。》

中 3 で白百合のオープンキャンパスに参加しました。その際、開放的なキャンパスが両手を広げて出迎えてくれているような印象を受け、感銘を受けたのを覚えています。
「ここでならきっと楽しい高校生活を送れそう」という直感と、冷暖房設備や各種特別教室など充実した学習環境に惹かれ、志望しました。

白百合では毎朝お祈りの時間があります。他にも、宗教の授業や、全校生徒でのミサなど、カトリックのミッションスクールとしてキリスト教の教えに触れる機会が多くあります。私の家は仏教なので、白百合で初めて学ぶこと・経験することが多くありましたが、宗教を通して「神様に愛されている」という安心感を得られたことが、私のその後の人生を豊かにしてくれていると感じています。

また、公立の共学校から女子高に入ったことで感じた違いもありました。共学高では無意識のうちに「女子だから女子らしくこのように振る舞うべき」と考えて行動していた部分がありましたが、白百合ではそのように振る舞う必要がありませんでした。力仕事はできる人

が率先してやるか皆で協力してやる。部活も生徒会も文系も理系も自分たちのもの。振り返ると、白百合で過ごした３年間は「ジェンダーからの解放」であったと感じます。人生の多感な時期に同性だけで過ごすことで、「男らしさ」「女らしさ」から解放され、自分らしく過ごすことができたと感じています。

■白百合で学んだこと

《在学中に培った価値観や学びが、現在のお仕事や活動にどのように生かされていますか。》

「隣人を自分のように愛しなさい」「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」どちらも在学中に学んだ聖書の言葉です。白百合で過ごした３年間で私は、神様に愛されていることを知り、その愛を人に分けることの喜びを学びました。卒業して進路を選ぶことになった時にも、自然と、困難な状況にある人を助ける・支える仕事に関心を持つようになりました。

■ 現在のご活動について

《現在のお仕事や活動を選ばれたきっかけを教えてください。》

私の仕事は言語聴覚士といって、話す・聞く・食べる・飲み込むのリハビリをする仕事です。食べることや話すことは生きていく上で欠かせないことなので、それを支える仕事に魅力を感じました。

大変なこともありますが、リハビリを通して患者さまやご家族の方の暮らしがよくなったのが分かった時には、やりがいや達成感を感じます。

（余談ですが、私の白百合でのクラスメイト（LS コースだったので 3 年間同じクラスでした）は、それぞれ個性的な進路を歩んでいるような印象を受けています。自分がやりたいことを選んでやっている感じがします）

■在校生・受験生へのメッセージ

《在校生や、これから白百合を目指す皆さんに向けて、メッセージをお願いいたします。》

白百合は、教科の勉強や受験対策だけでなく、これからの人生を豊かにしてくれる学びをたくさん得られる場所です。愛に溢れた優しい先生や、長く付き合える友人たちともきっと出会えると思います。受験生の皆さんは、入学後にきらきら輝く自分の姿を想像しながらぜひ頑張ってください。応援しています。